**鹽竈神社と志波彦神社**

正確な年代は不明ですが、鹽竈神社は奈良時代（710–794）より前に創建されたと考えられています。志波彦神社はより近年の1874年に現在の場所に移されました。今日、この二社は同一の境内にあり、いくつかの祭りを共同で開催しています。

鹽竈神社は三神を祀っています。海の守護神であり人々に製塩の方法を伝授した鹽土老翁神（シオツチノオジノカミ）は別宮に祀られています。戦の神である武甕槌神（タケミカヅチノカミ）と経津主神（フツヌシノカミ）はそれぞれ左宮と右宮に祀られています。1704年に建立された本殿は、背面より全面が長い非対称の傾斜屋根を持つ流造（ながれづくり）という建築様式で建てられています。

志波彦神社は、塩竈地域の守護神でもある農耕の神・志波彦神（シワヒコノカミ）を祀っています。黒と朱で塗られた豪華な本殿は、1938年に建て直されたものです。

参拝者は、両脇に杉の木立が鬱蒼と茂り、石灯籠が立ち並ぶ202段の石段を登って社殿に向かいます。階段の上にそびえる重厚な随神門（1700年代建造）をくぐると神社の中心部にたどり着きます。

神社の敷地は、塩竈市と松島湾の島々を見晴らす約3万平方メートルの高台です。境内には、国指定重要文化財の社殿14棟に加え、落ち着いた日本庭園や40品種約300本の桜の木があります。これらの桜には国の天然記念物に指定されている多くの鹽竈桜も含まれています。塩竈桜は4月下旬から5月上旬にかけてふわふわした八重の花を咲かせます。

鹽竈神社と志波彦神社では、年間を通していくつかのお祭りが開催されます。春には日没後に桜がライトアップされ、「帆手祭(ほてまつり) 」では16人の男たちが重さ1トンの神輿を担いで202段の石段を下ります。夏の「みなと祭」では、両神社の神輿が龍や鳳凰を模した華やかな船に乗せられ、松島湾を巡幸します。11月23日に行われる収穫祭「初穂曳（はつほひき）」には、本殿の前の広場が豊穣と大漁に感謝して捧げられた米俵や巨大な魚、野菜で埋め尽くされます。また、2月上旬には、両神社は春の訪れを告げる盛大な節分祭を開催し、邪気を祓うとされる豆まきを行います。